

## 研究報告

## 宿泊施設における環境認証制度に関する研究

近藤圭（滋賀県立大学環境科学部）  
柴田裕希（滋賀県立大学環境科学部助教）

## 1. 背景

今日、社会のあらゆる企業活動において環境配慮活動が求められている。その中の一つとして、宿泊施設においても環境配慮活動が行われている。

岩淵<sup>1)</sup>によると、建物用途別のエネルギー消費原単位 (MJ/m<sup>2</sup>年) は、食品スーパー (6,059)、研究所 (4,133)、病院 (3,839) に続き宿泊施設 (3,048)、デパート (2,960)、事務所 (1,826) となっており、宿泊施設自体の環境負荷は小さくない。宿泊施設において提供されるサービスは宿泊のみならず、催事、飲食など複数あり、環境負荷の要因が多様であることから、その把握は困難である。よって、宿泊施設における環境配慮活動を行う際、宿泊施設に対応した環境認証制度が有用であると考えられる。

仁賀<sup>2)</sup>によると、2001 年から京都・環境マネジメントシステム・スタンダード (以下、KES) が宿泊施設も含め正式に認証が始まった。また、2003 年からグリーン購入ネットワーク (以下、GPN) が GPN エコチャレンジホテル旅館データベース<sup>3)</sup> (以下、GPN エコチャレンジ) という、環境に取り組んでいる宿泊施設 (=エコチャレンジホテル) を検索、閲覧できるデータベースを立ちあげるなど、宿泊施設における環境配慮活動のための仕組みが整い始めている。

現在、国内において宿泊施設に対応した既存の環境認証制度として、ISO14001 とエコアクション 21 (以下、EA21)、KES、GPN エコチャレンジ、そして Green Key の 5 つが挙げられる<sup>1)</sup>。本研究では、国内における宿泊施設で認証取得可能な既存の環境認証制度を比較分析する。

宿泊施設における環境認証制度に関する先行研究として岩淵<sup>1)</sup>の研究があるが、環境認証制度の審査形態等の詳細な比較は成されていない。また、GPN エコチャレンジホテルに関する先行研究として仁賀<sup>2)</sup>、澤本<sup>4)</sup>らの研究があるが、他の環境認証制度との比較分析は行われていない。

## 2. 研究の目的

そこで本研究では、既存の 5 つの環境認証制度

を比較分析し、宿泊施設における環境認証の制度やその特徴の違いを明らかにする。これにより、宿泊施設における環境認証制度の今後の課題が明確になり、さらなる宿泊施設における環境認証制度の発展に寄与すると考える。

## 3. 研究方法

研究の目的を次のような方法で達成する。

## ① ヒアリング調査

環境認証制度を運営している事務局に対しヒアリング調査を行った。環境認証制度としての特徴や定量的指標の有無、認証取得業者間での情報共有の仕組み等について調査した。ヒアリング調査の実施概要について表 1 にまとめた。既存の環境認証制度のうち、本部 GPN 事務局、EA21 地域事務局びわこ、KES、Green Key に対しヒアリング調査を行った。なお、Green Key は電子メールでの回答となった。

## ② 比較分析

ヒアリング調査および文献調査を基に、宿泊施設が認証取得可能な各環境認証制度の比較分析を行い、制度上の環境認証の現状とその特徴を整理した。また、各認証制度の審査手法に着目し、その違いを比較することで類型化を行った。

## 4. 制度概要の比較

各制度の概要を比較するに当たり、まずは各制

表 1 ヒアリング調査一覧表

| 名称        | 対象者  | 調査日                           | 場所                  |
|-----------|------|-------------------------------|---------------------|
| GPN       | 深津学治 | 2010 年 11 月 22 日<br>13 時～14 時 | 本部 GPN 事務局 (千代田区)   |
| EA21      | 今川忠彦 | 2011 年 5 月 10 日<br>15 時～16 時  | EA21 地域事務局びわこ (長浜市) |
| Green Key | 円谷幸子 | 2011 年 5 月 11 日<br>(メール受信日)   |                     |
| KES       | 荒川佳夫 | 2011 年 5 月 16 日<br>10 時～11 時  | 京都工業会館 (京都市)        |

表 2 制度概要の比較<sup>3), 5), 6), 7), 8), 9)</sup>

| 名称              | ISO14001                 | KES   | EA21                                  | Green Key                         | GPN          |
|-----------------|--------------------------|---|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------|
| 制定・創設           | 1996 年                   | 2001 年  | 1996 年                                | 1994 年                            | 2003 年       |
| 発行元(発祥地)        | 国際標準化機構<br>(イギリス)        | 特定非営利活動<br>法人<br>KES 環境機構<br>(京都市, 日本)                                  | 財団法人地球環<br>境戦略研究機関<br>持続性センター<br>(日本) | 環境教育基金<br>(デンマーク)                 | GPN (日本)     |
| 国内登録数<br>(宿泊施設) | 39556(148:飲食<br>施設も含む)   | 3,603 (20)  | 6,251 (4)                             | 5 (5)                             | 145 (145)    |
| 審査機関            | 民間                       | KES 環境機構  | エコアクション<br>21 地域事務局                   | Green Key                         | GPN          |
| 登録費用            | 70~300 万円 <sup>※</sup>   | 10~30 万円<br>(ステップ 1) <sup>※</sup><br>30~40 万円<br>(ステップ 2) <sup>※</sup>  | 52,500~<br>315,000 円 <sup>※</sup>     | 登録費用<br>100,000+(1,000<br>×客室数) 円 | 一施設 10,000 円 |
| 更新費用            | 初年度の 3 分の<br>2 程度        | 45,670 円<br>(ステップ 1) <sup>※</sup><br>120,750 円<br>(ステップ 2) <sup>※</sup> | 52,500~<br>315,000 円 <sup>※</sup>     | 登録費用<br>100,000+(1,000<br>×客室数) 円 | 一施設 10,000 円 |
| 更新・審査           | 3 年                      | 1 年   | 2 年                                   | 3 年                               | 1 年          |
| 登録対象範囲          | 事業所全体<br>(対象範囲指定<br>が可能) | 事業所全体   | 事業所全体                                 | 事業所全体                             | 事業所全体        |

※ 規模・業種により異なる

度の創設年及び認証発行を行う団体に関してまとめるとともに、国内での認証登録数を調査した。また、認証取得においては、その審査によって認証の信頼性が判断されることから、審査機関の比較を行った。最後に、認証取得する宿泊施設においては認証取得と認証維持にかかる経費が問題になると考え、同経費に関して調査を行った。この結果を表 2 に示す。以下に各項目ごとの詳細を比較する。

### (1) 環境認証制度の制定経緯

#### 1) GPN エコチャレンジ

GPN エコチャレンジについては、同制度の創設以前より『エコ商品ネット』と呼ばれるグリーン購入に関するインターネット上のデータベースに、エコホテルに関するデータベースが提供されていた。『エコ商品ネット』とは、約 2 万点の不特定の商品種を取り扱っており、その商品の環境情報を掲載しているウェブサイトである。そして、サービス分野として独立したウェブサイトにするべき、また、独立した方が目立つという議論が同制度運営主体でなされ、2003 年に『GPN エコチャレンジ』として独立したウェブサイトを提供されることになった。

#### 2) EA21

EA21 は環境省が主導的に創設した環境認証制

度である。1995 年、中小企業向けの環境への取組を推進するためのプログラムとして検討が開始されたが、2002 年から内容の一部改訂により EA21 は認証・登録制度となり、2004 年 4 月から運営が始まった<sup>5)</sup>。

#### 3) Green Key<sup>7)</sup>

1994 年にデンマークで、「宿泊施設の無駄なサービスを省き、そこから生まれた余剰でより大きなサービスを提供する」というコンセプトから、Green Key の運営が開始された。2002 年、国際環境 NGO『環境教育基金』(以下、FEE) が実施するプログラムの一部として導入された。日本では FEE Japan が業務委託を受け、2009 年から運営を開始した。

#### 4) KES<sup>8)</sup>

1998 年に市民、事業者、行政が一体となった『京のアジェンダ 21 フォーラム』という組織が発足した。この中で産業活動を対象とする温暖化防止の要として、中小・零細事業所を対象とした環境管理システム(以下、EMS)の必要性が議論され、結果、2001 年に KES は正式に運用が開始された。

### (2) 国内における環境認証制度の認証登録数

ISO14001 の認証登録数は全業種で 39,556 件であり、このうちホテル・レストランにおける認証登録件数は 148 件となっている<sup>9)</sup>。これは、同

制度の運営団体の発表する情報であるため、宿泊施設のための登録件数は把握できなかった。今後の調査では、宿泊施設のための登録件数、および自己宣言をしている宿泊施設の有無を明らかにする。KES の認証登録数は 3,603 件、宿泊施設における認証制度登録数は 20 件となっている。EA21 の認証登録数は 6,251 件、宿泊施設における認証登録件数は 4 件となっている。

そして、Green Key の認証登録数は 5 件、GPN エコチャレンジの認証登録数は 145 件である。Green Key 及び GPN エコチャレンジは、宿泊施設のみを対象とした制度であることから、認証登録対象事業所は宿泊施設のみである。

### (3) 認証登録における費用および更新について

一般的に ISO14001 の認証登録費用は約 70 万円から約 300 万円といわれる。また、更新（毎 3 年）の際は、初年度の 3 分の 2 の費用が必要になる。なお、これらの費用は規模・業種により異なる。

KES の認証登録費用は、ステップ 1 は約 10 万円から約 30 万円、ステップ 2 は約 30 万円から約 40 万円である。また、更新（毎 1 年）の際は、ステップ 1 は約 4 万 5 千円、ステップ 2 は約 12 万円の費用が必要になる。

EA21 の認証登録費用は約 5 万円から約 30 万円である。また、更新（毎 2 年）の際は、約 5 万円から約 30 万円の費用が必要になるという。

Green Key の認証登録費用は、10 万円に加えて 1 千円×客室数の審査費用、そして審査員の交通費および宿泊費である。また、更新（毎 3 年）の際は、再度、10 万円+1 千円×客室数、そして審査員の交通費および宿泊費が必要である。

GPN エコチャレンジの認証登録費用は、一施設 1 万円である。また、更新（毎 1 年）の際は、一施設 1 万円の費用が必要になる。

## 5. 特徴の比較分析

### (1) 各制度の認証審査の特徴と形態

文献及びヒアリング調査に基づく宿泊施設における環境認証制度の特徴について表 3 にまとめた。

ISO14001 の特徴の一つとして、国際認証制度であることが挙げられる。

KES の特徴およびメリットは、ISO14001 より認証審査のための文書が簡易であり、大手企業の取引先である中小・零細事業所が EMS に比較的容易に取り組めることである。また、KES 認証制度にはステップ 1 とステップ 2 がある。ステップ 2 はマニュアル全 26 ページに対し、ステップ 1 はマニュアル全 7 ページと、ステップ 1 はより簡易である。

一方で KES のデメリットは、運営組織のスタッフの確保であり、今後 KES の運営の担い手をどのようにして集めるかが課題である。

EA21 の特徴およびメリットは、事業者全体を包括するガイドラインの下に業種・業態別のガイドラインが存在することであり、定量的な指標の設定と宿泊施設による情報公開の奨励について取り組んでいることである。また認証取得している事業者間の情報共有の場を設けていることも挙げられる。この情報共有の場は 2 か月に 1 度の頻度で設けられている。

一方で EA21 のデメリットとしては事業者と運営側の連携の弱さが挙げられる。

表 3 文献及びヒアリング調査に基づく宿泊施設における環境認証制度の特徴<sup>3), 5), 6), 7), 8), 9)</sup>

| 名称        | ISO14001                  | KES                                   | EA21  | Green Key                        | GPN                            |
|-----------|---------------------------|---------------------------------------|---|----------------------------------|--------------------------------|
| 定量的な指標の有無 | ×                         | ×                                     | ○   | ○                                | ×                              |
| 情報共有の場    | ×                         | ○                                     | ○   | ○                                | ×                              |
| 特徴        | ・国際認証                     | ・中小企業でも取り組みやすい<br>・ISO14001 より文書管理が簡素 | ・中小企業でも取り組みやすい<br>・事業者への情報公開の奨励<br>・業種、業態別のガイドライン | ・ホテルに限定した環境認証<br>・欧州を中心に事業を展開    | ・ホテルに限定した環境認証<br>・調達における環境配慮制度 |
| メリット      | ・国際的信頼<br>・経営ツールとして自由度が高い | ・中小企業にとって使いやすい<br>・ISO14001 より安価      | ・地方自治体が推奨<br>・ISO14001 より安価                       | ・環境項目が規定されている<br>・世界約 1250 施設が取得 | ・環境項目が規定されている<br>・最も安価         |
| デメリット     | ・登録、更新費用が高い<br>・高い専門性が必要  | ・組織運営の担い手                             | ・事業者と運営側の連携の機会が少ない                                | ・国内での知名度が低い<br>・ツールとしての発展性       | ・知名度が低い<br>・ツールとしての発展性         |

Green Key の特徴およびメリットは、宿泊施設に特化した環境認証制度ということである。また、認証基準の中に定量的な環境パフォーマンスの指標も存在する。

Green Key のデメリットは日本国内における認知度の低さによる宣伝効果の低さである。

GPN エコチャレンジの特徴およびメリットは宿泊施設に特化した環境認証制度ということである。また、登録条件において環境項目が既定されていること、既存の認証制度の中で最も安価なことも、特徴およびメリットとして挙げられる。

GPN エコチャレンジのデメリットは認知度の低さによる宣伝効果の低さ、また環境項目が既定されていることにより、環境配慮施策の発展性が低いことが挙げられる。

## (2) 各環境認証制度の審査形態分類

本研究では、各制度の認証審査における「定量的な指標の有無」、「審査項目の設定主体」、「配慮施策の設定主体」に着目して分類を行った。この結果、「環境項目既定型環境認証制度」と「環境配慮施策既定型環境認証制度」、「環境項目選定型環境認証制度」の3つの環境認証制度に分けられた。

### 1) 環境項目既定型環境認証制度

該当：EA21, GPN, Green Key

定量的な指標を設けたものも含め、制度登録・更新の条件において、環境項目が既定されている環境認証制度を示す。宿泊施設における環境負荷の要因は多様であり、その把握を容易にすることに関しては最も適切な環境認証制度であると考ええる。

### 2) 環境配慮施策既定型環境認証制度

該当：GPN, Green Key

『環境項目既定型環境認証制度』と同様に、宿泊施設における環境負荷の要因は多様であり、その把握を容易にすることに関しては適切な環境認証制度であると考ええる。また、制度登録・更新の条件において、この条件である要求事項が全て既定されており、宿泊施設独特の、環境負荷低減のための要求事項が盛り込まれている。

### 3) 環境項目選定型環境認証制度

該当：ISO14001, KES

制度登録・更新の条件において、環境項目が既定されていない環境認証制度を示す。EMS 導入によるサービスの低下を懸念する宿泊施設にとっ

て、環境項目が選定可能であることから、この懸念を拭える最も適切な環境認証制度ではないかと考える。

## 5. 今後の展開

今回の4件のヒアリング調査において、共通していたことは、「EMS 導入によるサービスの低下を懸念する考え方が宿泊施設側にある」ということだった。また、「宿泊客は宿泊先で贅沢がしたい。宿泊客への教育も必要になる」というコメントを KES の荒川氏からいただいた。このことを踏まえると、利用客の満足度と環境配慮施策の間で宿泊施設は難しい課題に直面していると考えられる。そこで今後は宿泊施設側を対象にした調査を進めていく。

## 参考文献

- 1) 岩淵善美：ホテルにおけるエネルギー・環境に配慮した活動への取り組み，平安女学院大学研究年報，第9号，pp23-32（2008）
- 2) 仁賀崇之：「宿泊施設における環境配慮に関する研究」—京都市内の宿泊施設を対象として—，滋賀県立大学環境科学部環境政策計画学科卒業研究報告書（2001）
- 3) グリーン購入ネットワーク：GPN エコチャレンジホテル旅館データベース < <http://ecochallenge.jp/> >，2010-10-20
- 4) 澤本智也・他：エコホテルの総合評価，慶應義塾大学前田研究会（2003）
- 5) エコアクション 21 中央事務局：エコアクションの沿革 < <http://www.ea21.jp/index.html> >，2011-03-20
- 6) 円谷幸子 < [info@feejapan.org](mailto:info@feejapan.org) >：グリーンキーに関するヒアリング，回答（グリーンキー事務局），2011-05-11，私信
- 7) NPO 法人エコサポート TGAL：いろいろな環境マネジメントシステム（EMS） < <http://www.geocities.jp/kttcw652/ems.html> >，2011-01-05
- 8) KES 環境マネジメントシステム創立 10 周年記念誌，KES 環境機構（2011）
- 9) 公益財団法人日本適合性認定協会：ISO14001 適合組織統計データ < [http://www.jab.or.jp/cgi-bin/jab\\_statistic\\_14\\_j.cgi?page=3](http://www.jab.or.jp/cgi-bin/jab_statistic_14_j.cgi?page=3) >，2011-05-30